

9	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17108004	妊娠中毒症における母胎間ネットワークの解明	深水 昭吉 (筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>レニン・アンギオテンシン系の感受性亢進が病態悪化の大きな原因とされる妊娠中毒症について、分子レベルでの解明を目的とした研究である。モデル動物として妊娠高血圧マウスを病態解析に用いていることが評価される所であり、現時点では十分な業績と未発表知見を得ている。このマウスの胎盤では母胎間のネットワークの構造が病態悪化していること、このマウスから生まれた子宮内胎児発育遅延を示す出生児では心臓や肝臓など主要臓器が機能不全に陥っていること、心血管系で発現する APJ 受容体が欠損した妊娠高血圧マウスでは妊娠後期の蛋白尿が著しく悪化することなど、病態的所見が新たに発見されている。具体的な探求すべき標的分子・機能選定が進んでいるようであり、代表者が目指す分子レベルでの解析基盤は確立されたものと判断され、今後の研究計画が着実に実施されれば多くの新規性の高い重要な成果が期待できる。</p>				
10	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	17109001	非平面アミドオリゴマーの自己組織化構造とヘリックス表面の機能化	大和田 智彦 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>これまでの具体的な成果は、目的としたオリゴマーの合成、オリゴマーがヘリックス構造をとることを確認、平滑筋弛緩作用を持つモノマーアミンの合成を行ったことである。研究目標に掲げたことがすべて達成されているわけではない。しかし、それ故に評価を下げるものではない。そもそも達成されることが確実な研究目標では画期的な展開はない。今後も当初計画に従って遂行するのでよい。</p> <p>ただ、研究の最終目標を蛋白質の立体構造予測に役立つ基本原理の解明としているが、この基準で評価すると成果を得る見込みは極めて低い。「非平面アミドオリゴマーの自己組織化構造とヘリックス表面の機能化」から得られる成果を蛋白質の構造構築原理に結びつけるには距離がある。本研究を通して対象とするオリゴマーの構造構築原理の解明と新しい機能性分子の創成で十分価値ある研究である。検討不十分な目標設定は評価を下げかねない。</p>				